公益社団法人 京都モデルフォレスト協会情報誌「以森伝心（いしんでんしん）」

以森伝心

理事長　柏原康夫筆

第16号
2012年3月

特集：インタビュー
「香りと森」
株式会社松栄堂
畑 正高 氏

森林に関わる人々　第６回
森林で活動する人々③

森と木のナルホド講座　第12回
収穫期を迎える人工林

チーム以森伝心ニュース

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

綾部市　二王門遠望

香りと森

特集：インタビュー

株式会社松栄堂　代表取締役社長

畑（はた） 正高（まさたか） 氏

まずは森林に入ることが大切。森林を身近に感じれば、その大切さに思いを巡らすようになる。

仏教とともに日本に招来された「香」。最近では、若い世代にもお香を楽しむ人が増えてきました。
今号は、創業300余年の「香老舗 松栄堂」社長の畑 正高氏に、森林への想いについてお話をうかがいました。

京都御所にほど近い、京都の商業地区に構える香老舗松栄堂本店。1階の店舗スペースでは、薫香ほのかに漂うなか、商品選びを楽しむ愛好家やユーザーの姿が多く見られる。商品の種類は驚くほど多彩で、宗教用の薫香、茶の湯の席を彩る練香、お座敷用のお線香や手軽なインセンス、匂い袋など、さまざまなスタイルのお香が並ぶ。

「日本においてはもちろんのこと、近年は海外でも幅広い年齢層の方々が、お香を楽しまれるようになりました。おもしろいことに香の原料は、仏教とともに伝来した頃から変わっていません。丁子（ちょうじ）・桂皮（けいひ）・安息香（あんそくこう）・竜脳（りゅうのう）・貝香（かいこう）・白檀（びゃくだん）・沈香（ちんこう）・鬱金（うこん）・大茴香（だいういきょう）……難しい名前ばかりですが、すべて、古（いにしえ）より知られている香の原料の名称で、今日もまったく同じものが使用されています。日本では『香の文化』は1400年以上も続いていることになります」

松栄堂の創業は今から300年ほど前。丹波篠山の里長であった畑六左衛門守吉が、商いの道を興した「笹屋」に始まる。畑社長は12代目として「香の文化」の継承にあたる。

「香の原料のほとんどは、中国の南部や東南アジア諸国から運ばれてきます。温暖で柔和な気候に恵まれたわが国で採集することは不可能なのです。例えば、沈香という木質系の香りは特に日本人の感性に合致し、歴史を通じて珍重されてきましたが、産出地はおもに東南アジアです。厳しい熱帯の風雨にさらされたり、鳥につつかれたりして、傷ついた木の幹に樹脂が沈着し、それが長い歳月をかけて熟成され、ようやくでき上がるのです。

その一方で、四季の変化にメリハリがあり季節感に対する工夫が必要とされたわが国でこそ、香りが彩る暮らしの趣が深く理解され、ふくよかな香の文化が発達したと考えられています。品質のよい原料を入手し無駄なくその特質を生かすように配合することから、奥行きの深い香りを楽しむことが始まるのです」

温暖で高温多湿、空気も水も清らかで、3か月ごとに四季がうつろう。世界中を見回しても、数えるほどしかない恵まれた環境だからこそ、香りを楽しむ文化が発達し、草根木皮（そうこんもくひ）を材料として香りをアレンジする技術が育まれてきたと指摘する畑社長。そうした想いは、自然への畏敬の念、森林への感謝、そして保全活動へと向かう。

平成23年5月22日。京都市右京区京北町のとある山中で、間伐作業に取り組む20人ほどの姿があった。地下足袋に腰ナタを装備、GPSレシーバーを携えた本格装備をした人から初心者まで、スタイルはさまざま。社内への呼び掛けで参加した松栄堂の社員たちだ。

株式会社松栄堂
代表取締役社長
畑（はた） 正高（まさたか）

昭和29年 京都生まれ。大学卒業後、香老舗 松栄堂に入社。平成10年同社代表取締役社長に就任。香文化普及発展のため国内外での講演・文化活動にも意欲的に取り組む。平成16年 ボストン日本協会よりセーヤー賞を受賞。環境省 かおり環境部会委員、京都府教育委員、同志社女子大学非常勤講師などの公職も務める。
著書に「香清話」（淡交社）、「香三才」（東京書籍）、関連書籍として「香千載」（光村推古書院）などがある。

グリーンウェイブ 2011 での間伐、皮剥き体験。初めて木を切る参加者も多かった

間伐体験から約半年後に伐採した木を使いテーブルを制作した

「グリーンウェイブと言って、国連が定める国際生物多様性の日(5 月 22 日)の午前 10 時に、世界各地の人々が学校や地域などで植樹などを行うというプログラムに賛同して実施しました。必ずしも植樹にとらわれる必要はなくて、森林に関した活動を通じて自然と親しみ、生物多様性に関する意識を向上させることを目的としたプログラムで、世界中で行われた活動報告がインターネットに寄せられます。その結果が世界地図に樹木のアイコンで表示されていくんですが、ヨーロッパには所狭しと樹木が立ち並んでいるのに対し、残念ながら日本ではまばらにしか立ちません。

確かに日本では植樹に適した時期ではないのが、日本で広まらない要因かもしれませんが、森林に関わる活動をすることが大切なのです。当社では“森林探検”や“間伐体験”といったプランを実施しました。間伐体験のプランでは、人工林の手入れや間伐を体験。切り倒した木の皮を剥いて丸太に加工し、約半年後に長岡京市にある工場へ運んでテーブルを作りました。初めて参加した社員がほとんどでしたが、とにかく、生き生きとした表情が印象的でしたね」

間伐体験の場となったのは、畑社長が所有する山。母親の実家が京北町にあることから、幼少期よりさまざまなかたちで、この地の山を見て育った。

「お香を扱う仕事なので、当然のことながらお盆の時期は一番の繁忙期。小学生の頃は、夏休みに入るとすぐに姉と二人、田舎に預けられました。JR バスに乗って周山のバス停で降りると祖母が迎えに来てくれていました。夏休みは田舎で過ごすのが当たり前で、お盆を過ぎるとようやくクラゲだらけの海に連れていってもらえる(笑)」

「香」を通して学び感じた自然の偉大さと、京北の森林や里山環境に育まれた自身のルーツ。このあたりが、森林保全活動に駆り立てられる大きな柱となっているようだ。京都モデルフォレスト運動にも発足当初から参加、会合や講演の場など機会を見つけては紹介・参加の呼びかけに努めてきた。

「発足から 5 年が過ぎ、そろそろセカンドステージに進む時期に入ってきたと思っています。ファーストステージでは大企業が中心となった取り組みでしたが、次の段階では中小企業に広げていくことがポイントではないでしょうか。京都には豊かな森林がたくさんありますし、美しい里山もたくさんある。そうした資源をどうやって生かしていくか。また、次の世代の子どもたちにも意識してもらいたい。そのためにも、まずは森に入る機会を増やすことが大切。森林を身近に感じ、その環境に対して意識を持つようになれば、自ずと自然に対する意識が育まれていくはずですから」

グリーンウェイブ 2012 **《キャンペーン期間：24 年 3 月 1 日～6 月 15 日　実行日：5 月 22 日 10 時～》**

木を植えることをきっかけとして生物多様性について考えるための、地球規模のキャンペーン。生物多様性条約事務局は、世界各地において、現地時間の生物多様性の日（5 月 22 日）の午前 10 時に植樹をはじめとする森林に関する活動を行うことを呼びかけています。その動きが地球上を東から西へ波のように広がる様子を「緑の波（グリーンウェイブ）」と表現しています。その動きはリアルタイムにインターネット上で確認できます。日本では、環境省、農林水産省及び国土交通省が参加を呼び掛けています。あなたもグリーンウェイブに参加して、世界中の皆さんと一緒に「生物多様性」について考えてみませんか？

http://www.greenwave.go.jp/

森林（もり）に関わる人々

かつて、森林が元気だった頃、人々はさまざまなかたちで森林と関わっていました。
食事の煮炊きに使う薪を集めたり山菜を採ったり、あるいは猟をしたりと、どの家庭も森林との関わりのなかで暮らしていました。
そして現在。「森林の大切さを見直そう」「美しく豊かな森林を取り戻そう」という気運が高まってきましたが、人々はどのように森林と関わっているのでしょうか。
当コーナーでは、森林に関わる人々について紹介します。

第６回　森林で活動する人々③

「森林で活動する人々」シリーズでは、環境や生物多様性の保全、文化・教育・レクリエーションなど、さまざまな観点から森林整備・保全活動を行っている「団体」と「人」にスポットを当てて紹介します。今回は、平成 22 年 7 月に発足した「林業女子会@京都」を紹介します。

林業女子会@京都

「女子会」という名の通り、20 代から 60 代の女性のみのグループです。サークルという位置づけで活動しており、メンバーは学生、森林組合職員、公務員、建築士、一般の社会人など、初心者から林業関係者まで、林業や森林に興味を持っている女性であれば誰でも参加できます。

「女子から女子に、林業の魅力を伝えたい！」をコンセプトに森林や木材、林業の魅力を知ってもらうことを目指しています。現在は静岡や岐阜でも林業女子会が発足し、連携を強めています。

活動の内容

①フリーペーパーの発行

都心部では「林業」に触れる機会が少ないことに着目。まずは町の中で林業との接点をつくる仕掛けとしてフリーペーパーを作成しています。平成 23 年 2 月に創刊し、同年 11 月には 3 号を発刊。デザインや内容も女性向けの編集。都心部の店舗やカフェで毎号 5,000 部を配布しています。

②林業体験イベントの開催

実際に森林に入って整備をしたり、都心部で情報発信したりするイベントを不定期に実施。林業関係者とともに企画しています。当協会も、平成 22 年 11 月に府民の森ひよしでの「森の女子会」を一緒に行いました。

③林業カフェの開催

京都市内で「林業カフェ」を開催。ワークショップ形式で林業についての座学から、木工制作、七輪や火鉢の体験会など、女性にも気軽に興味を持ってもらえそうな切り口から、林業へのアプローチを試みています。

都心部の女性にも林業を知ってもらいたい

大学・大学院を通じて「山仕事サークル」に所属し、植林や間伐の体験を通して林業に興味を持ち始めました。同時に、日本の森林・林業は課題が多いものの、一方でそのスケールの大きさや木材の美しさなどに魅力を感じました。

「林業」といわれても、都心部に住む人、特に若い女性には直接関係ない世界だと思いがちです。しかし、木材など森の恵みを使うことで消費者として関わっており、林業を職業とする女性もいます。川上と川下から森をサポートするには、女性たちにも森林や山の現状、さらには林業にも興味を持ってもらうことは重要だと考えています。だからこそ「林業」を「森の恵みを生活にいかすこと」と広く定義し、“林業女子”としました。イメージ先行の林業ではなく、地に足のついた生活感のある「林業」にこだわったからです。そして、私たち女子のほうから林業にアプローチしていこうと思いました。

そして何より、森の恵みの魅力を多くの女性に知ってもらうことが、家庭を持った時に子どもに木のおもちゃをあたえたり、国産材の家具を選んだりすることにつながり、子どもたちにも木のよさが循環していくと、林業の未来へつながっていくのではないかと思います。

あくまで「楽しい」「好き」といった気持ちでゆるやかに林業に関わり続けることが、私たち女性にできることではないかと考えています。

岩井有加（いわいゆか）
「林業女子会@京都」代表。京都大学大学院農学研究科森林科学専攻。今春、大学院を卒業するが、就職先も林業関係。会の代表は代わるが、あくまで敷居の低い、気軽な集まりを持続させていきたいと考えている。

林業女子会@京都の活動に参加しませんか？

林業女子会@京都では、京都市内や府内の森林をフィールドに不定期に活動を行っています。活動の内容や詳細はホームページをご覧ください。女性限定ですが、林業や森林に興味のある方はお気軽にご参加ください。

連絡先：林業女子会＠京都
〒 604-0931　京都市中京区寺町二条下ル榎木町 98-7
京都ペレット町家ヒノコ内
Mail：fg.kyoto@gmail.com
H P：http://fg-kyoto.jugem.jp/

開催報告

モデルフォレスト運動のネットワーク化を目指して

共有と連携　～「点」から「面」への展開

京都モデルフォレスト協会が設立されて5年目を迎えるにあたり、これまでの活動実績の報告会と、今後の方向性を検討する意見交換会が開催されました。当日は、小澤普照京都府立大学客員教授から、リオサミットを起源とするモデルフォレスト運動の発足の経緯や、今年がその20年目にあたり「リオ+20」の取り組みが進んでいることなど話題提供。また、府内各地でいち早くモデルフォレスト運動に取り組んだ西山協議会の活動報告、府内各地で活動している企業（3社）から事例紹介の後、意見交換会が行われました。

活動報告

それぞれの活動地の地域住民からのニーズを取り入れながら、各社の独自の目標を設けるなどの活動を実施していることが紹介されました。

事例報告1　西山協議会（長岡京市西山）

西山には京都へ薪や柴を供給してきた歴史的背景がある。森林整備の際には、必ず事前に自然環境調査を行って実施。地元の企業も多数参加し、竹を活かした竹コンサートなども開催している。

事例報告2　グンゼ（綾部市鍛治屋町）

綾部において「地域と話し合い・地域が望むことを一緒に行う」ことを目標に定め、地域の住民の意向に沿った活動を目指している。

事例報告3　島津製作所（南丹市八木町）

活動の際には社長も参加し、新入社員の研修にも取り入れている。

事例報告4　京都生協（亀岡市旭町）

家族ぐるみで参加できるよう心がけており、雨天の場合も活動地近辺の屋内で実施可能なネイチャーゲームを活動に取り入れるなど工夫している。

意見交換会

意見交換会では、企業や大学での実践活動を行っている参加者から報告者への質疑応答と、それぞれの取り組みの内容紹介が行われました。企業担当者からの参加者のモチベーションを維持することの難しさに悩まされているとの発言に対して、環境教育の専門家からは地域や大学などでは参加者同士で教え合うことで、やる気を引き出す方法が実践されていると報告がありました。

京都モデルフォレスト運動の今後の方向性については、「パートナーシップでネットワークを構築すること」「多様な価値観を認めて地元のニーズに応えること」「他の地域の運動との違いを出すこと」で「京都らしさ＝京都流」の運動として広く発信する必要があると提案。また、「山を守り、育てる活動」から「山の利活用を目指す」運動へと進めることが課題であることが確認されました。

まとめ

参加企業のこれまで蓄積された活動のノウハウが紹介され、他地域での活動へフィードバックする機会になりました。

今回の意見交換会をキックオフと位置付けて、次年度以降も継続して開催することや、「国連持続可能な開発会議（リオ＋20）※」に向けて情報発信をすることなどが提案され、更なる展開が期待できる意見交換会となりました。

※「国連持続可能な開発会議（リオ＋20）」とは
1992年にリオデジャネイロ（ブラジル）で開催された「地球サミット」から20周年を迎えるにあたり、2012年6月20日～22日までの3日間、再び同都市で開催予定。
1992年の会議では、「環境と開発に関するリオ宣言」や「アジェンダ21」が採択されたほか、気候変動枠組条約や生物多様性条約が署名されるなど、今日に至る地球環境の保護や持続可能な開発の考え方に大きな影響を与えている。

森と木のナルホド講座

監修：京都モデルフォレスト協会

戦後の拡大造林政策で植えられたスギやヒノキは植林後40～60年の歳月が経ちました。収穫期を迎えたこれらの木は資源として有効に活用される時期となっています。

第12回：収穫期を迎える人工林

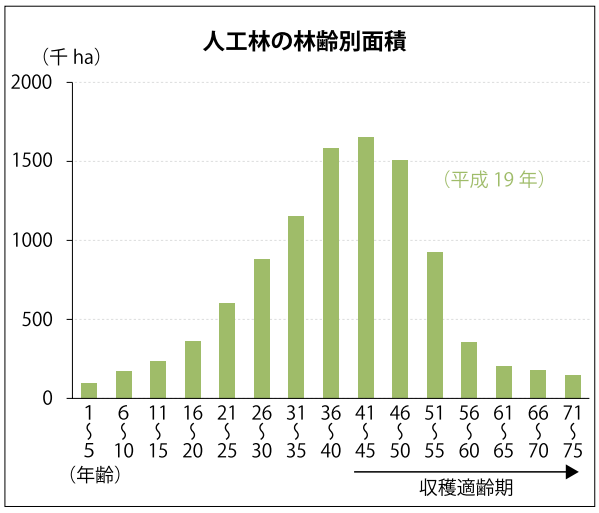
「伐期」は木を収穫するタイミング

農業では、一年のサイクルで種を蒔き、肥料を施し、雑草を刈り、世話をしながら作物を育てて収穫します。林業でも同じようにスギやヒノキの苗木を植栽して育てます。育成途中で、森林の密度が高くなると、生育環境を整えるために行うのが間伐で、皆さんもよくご存知の作業です。

では、「主伐」という言葉はご存知でしょうか。主伐とは一定の林齢に育った木を、木材として販売するために山から切り出すことをいいます。主伐までは50～60年の年月を要します。林業は本来、この主伐を目的とした産業です。

主伐には、一度に全面積を伐採する「皆伐（かいばつ）」と、何度かに分けて抜き切りする「択伐（たくばつ）」とがあります。特に皆伐は、山を丸裸にするので環境に良くないように思われがちですが、日本の人工林の場合は、収穫するために植えられた木なので、伐採して次の苗木を植え、再び森林に戻します。

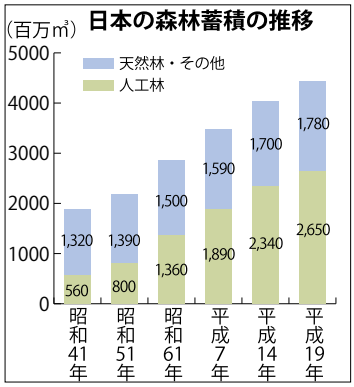
しかし、前号までも紹介してきたように、日本で年間に利用する木材のうち約7割以上は輸入材です。そして国内に伐期を迎える木々がありながら伐採されないままであったり、また伐採されても植林されないまま放置された森林があるのです。



出典：森林・林業白書（H23年度版より）

新技術を活用して安全で効率的な作業を

日本では戦後の拡大造林が落ち着いた昭和40年代以降、森林面積はあまり増えていません。しかし、木はだんだん大きくなり森林蓄積は年々着実に増え、過去40年で2.3倍に増えています。「森林蓄積」とは、森林にある樹木の幹の体積のことです。特に人工林においては、この40年間で5倍に増大しています。日本の林業の現状について、林業従事者の高齢化や、新たな担い手が増えないことなどが指摘されますが、急峻な地形のため、木を伐採して運び出すのが困難な点も見過ごせません。



出典：森林・林業白書（H23年度版より）

一方で、植えた頃は一律に50～60年とされていた伐期（主伐までの期間）も、林業経営上は商品価値の高い大径木の生産を目指す（長伐期）傾向にあり、間伐材を搬出し、有効に利用することが必要となっています。そこで、近年では効率的な利用間伐に対応できる高性能林業機械が注目されています。

京都府では、これらの機械を活用し、安全性・生産性が高く低コストな作業システムの普及・定着を推進しています。日本の森林・林業環境にあわせた機械の登場により、作業効率の向上が期待できます。そして、今春に開校する京都府立林業大学校においても、カリキュラムの柱のひとつとして「全国初の本格的な高性能林業機械の技術研修」が実施される予定です。

森林は伐採しても、また植林して適切に管理すれば永続的に持続可能な資源です。さらに、手を入れることにより、成長が促進され、CO_2をより多く吸収するというメリットもあります。次世代に健全な人工林を引き継ぐためにも、主伐・間伐は重要な行程だといえます。

チーム以森伝心ニュース

「チーム以森伝心」メンバーがレポートします！

三共精機株式会社、佛教大学　「つながりの森づくり」

場所：京都府南丹市美山町の宮脇地区

昨年の夏、三共精機株式会社、佛教大学による「つながりの森づくり」活動が行われました。子どもから大人まで60名が、前の年に植えたモミジの植栽箇所の下草刈りに汗を流しました。モミジは青々と元気に成長していました。

この日の参加者は、三共精機社員や佛教大学生のほか、府外からも取引先や社員の友人などが参加されました。数年前、佛教大学生の頃に「つながりの森づくり」に参加したことがきっかけで、今は三共精機で働いているという社員もおられ、まさに「つながり」という言葉に相応しい活動が行われていました。

7月16日森林づくり活動

活動場所は、2004年の台風23号によりヒノキなどの倒木が発生した山林です。三共精機が地元の方々とともに2008年3月から活動を始め、これまでにクリやモミジなど550本の植樹が行われました。苗木の選定にあたっては、その土地や標高に合った苗木で鳥などが利用できるような樹種を選んだり、季節によって変化する山の色を考えたりと、生態系や景観に配慮した森林保全活動をされています。

作業の後は、地元の方が用意してくださったバーベキューを囲み、参加者同士で交流を深めました。

（西本雅則・小山直美）

見学に行ってきました！エコハウス３

エコハウスは、夏暑く、冬寒い日本の気候の変化の中で、いかに無理なく電気や石油などのエネルギー使用を抑制できるかを徹底的に追求した住宅。深い軒が南向きの大きな窓の夏の直射日光を遮り、冬には低い角度で入る自然光を取り入れることができます。部屋の間取りも、風通しがよくなるように工夫されています。

エアコンをできるだけ使わないための特徴的な工夫は、ソラリ（ソーラー・リソース・システム：壁体内通気工法）。すべての壁の中に設けられた連続通気空間が、空気の自然対流を生みだす仕掛けです。夏には、床下換気口と屋根裏換気口を開けることで、上昇気流が、熱く湿った空気をどんどん屋根裏換気口を通して外へ排出し、床下の新鮮で涼しい空気が家の中に取り込まれます。反対に冬には、床下と屋根裏の換気口を閉めることで、太陽で温められた空気がゆっくりと壁の中を循環して家全体が自然に暖められます。機械や電気をまったく使わない優れた知恵です。実際に、夏では２階のエアコン１台で、家中が涼しくなり、冬は土間に据えられた薪ストーブで十分暖まります。

エコハウスでは、ソラリ等によって使用エネルギーをできるだけ低減した上で、太陽光、風力、ガス、蓄電池システム等の最先端の自然エネルギー技術を活用しています。さらに現在、京都大学大学院情報学研究室と共同で、家の中でのエネルギー消費の「リアルタイム計測」と「見える化表示」を行うとともに、居住者の行動パターンから限られた電力でも不自由なく生活できる最先端電力制御システムの開発を行っているそうです。

薪ストーブの炎のゆらぎに癒され、様々な工夫による自然エネルギーが生かされた生活空間の中で、大量生産大量消費物質文明の中で私たちが失ってきた大切なものを改めて感じることができました。

（宮本博司）

以森伝心レポーター募集　本誌レポートをお手伝いください。　募集期間：４／１～４／30
申込み・問合せは京都モデルフォレスト協会まで　kyomori@kyoto-modelforest.jp

活動報告

関西電力労働組合京都地区本部と協定を締結

３月１日、関西電力労働組合京都地区本部が行う里地･里山の維持保全活動について、京丹波町質美北久保区、京丹波町などと協定を締結しました。今回の協定は、農地の機能保全と地域活性化を目指す“京都モデルファーム運動”と同時に結ぶもので、同時に２つの運動に取り組むのは今回が初めてです。

学校緑化に取り組んでいます

２月29日、京都市立金閣小学校で、ゴルフ緑化促進会の学校緑化促進事業の植樹を行いました。京都ゴルフ倶楽部の協力で実現しました。児童が校門からの通路沿いにジンチョウゲやハナミズキなど花の咲く樹木の苗を植えました。

同日、福知山市立美鈴小学校で、「ローソン緑の募金」を活用した苗木の植樹を行いました。ミカンやゆずなど10種の苗木が校庭に植えられました。

日東精工株式会社と協定を締結

３月12日、日東精工株式会社が社会貢献活動の一環として取り組む、綾部市内の森林の利用保全活動を実施するため、綾部市口上林区や綾部市等と協定を締結しました。

綾部市は同社創業の地です。企業の森林づくり活動としては35例目になります。

緑の募金キャンペーン〈春〉実施中

期間：平成24年3月1日～5月31日

府民の皆様にご協力いただいている緑の募金は、森林ボランティア等、府民参加の森林づくり、地域緑化や学校の緑づくり、緑化行事や緑化コンクールの開催、緑の少年団活動支援ほか、東日本大震災の復興にも活用されています。

23年の春と秋の募金実績

17,339,234円

ご協力ありがとうございました。

発行：公益社団法人 京都モデルフォレスト協会 入会案内資料をご希望の方は、ご連絡ください。

〒602-8054　京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2　府庁西別館内
TEL & FAX　075-414-1270　　E-mail　kyomori@kyoto-modelforest.jp
URL　http://www.kyoto-modelforest.jp
2012年３月発行
企画・編集：自然堂（じねんどう）株式会社

この印刷物は、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インキを包含した植物油インキと適切に管理された森林の木材を利用したFSC認証用紙を使用しています。